

景気動向

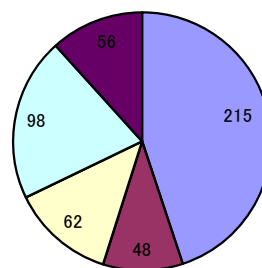
業況はわずかに改善。
先行きは製造業で悪化、非製造業では横ばいの見通し。

- 調査時点 平成23年1月調査(22年12月末時点)
- 対象企業 793社
- 回答企業 479社(回答率:60.4%)
(製造業215社、建設業48社、卸売業62社、
小売業98社、サービス業56社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業

製造業	215
建設業	48
卸売業	62
小売業	98
サービス業	56



- 製造業
- 建設業
- 卸売業
- 小売業
- サービス業

<全産業>

全産業の業況DI(▲18.6)は、前回(▲24.1)に比べてわずかに改善を示した。
業種別では製造業の業況DI(+3.3)は、前回(▲6.0)に比べてわずかに9.3ポイント改善した。

建設業、卸売業の業況DIも前回に比べてわずかに改善を示したが、小売業、サービス業では横ばいを示した。

各業種からは、「海外生産移転の影響か、大手企業からの発注量が大幅に減少」「7~9月までの猛暑で売上が激減し、10月以降になっても回復せず」という声や「中国の富裕層向け高級品の需要が増加」という声があった。

3か月先見通しは、製造業で悪化を見通しているのに対し、非製造業では横ばいを見通している。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
12月末時点	-18.6	-16.1	-29.4	-15.4
9月末時点	-24.1	-20.9	-31.3	-20.9
前回比	5.5	4.8	1.9	5.5

■全産業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	22.3	21.7
悪化	40.9	45.8
DI値	-18.6	-24.1
前回比	5.5	5.9

■12月末時点からみた

全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	8.4
悪化	42.6
DI値	-34.2

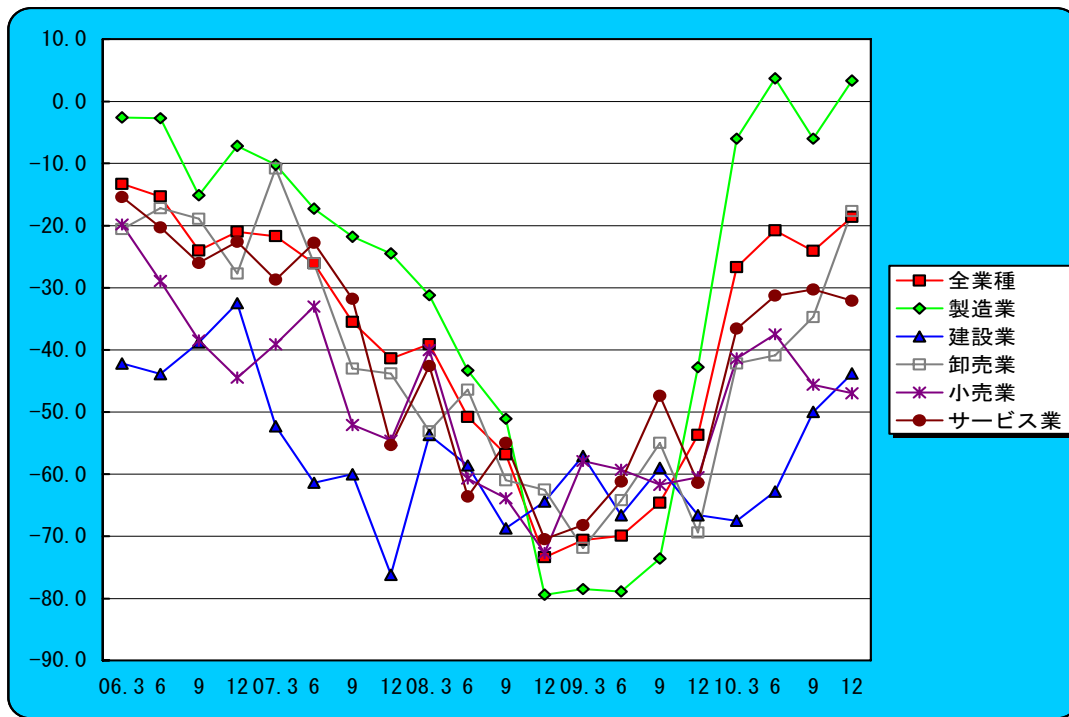
■製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	34.0	32.3
悪化	30.7	38.3
DI値	3.3	-6.0
前回比	9.3	9.7

■非製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	12.9	12.5
悪化	49.2	52.2
DI値	-36.3	-39.7
前回比	3.4	3.6

■業種別業況DI値推移グラフ



＜製造業＞

業況DI値	
今回	3.3
先行き	-29.7
前回比	9.3

対象企業	358
回答企業	215

業況・売上はわずかに改善、採算・資金繰りは横ばいを示した。
 業種別にみると業況は「食料品」「酒造」「織物」「縫製」「金属」で改善、「木材・木製品」「印刷」「窯業・土石」「電気機器」「輸送用機器」でわずかに改善、「一般機械」で横ばい、「精密機器」「プラスチック」でわずかに悪化、「ニット」「鉄鋼・非鉄」で悪化を示した。
 3か月先見通しは、業況・売上では悪化、採算・資金繰りでわずかに悪化の見通しを示している。
 業種別にみると「ニット」の業況は大幅改善、「織物」「窯業・土石」は改善、「酒造」「木材・木製品」はわずかに改善、「縫製」は横ばいを見通している。一方で「食料品」の業況はわずかに悪化、「印刷」「電気機器」「プラスチック」は悪化、「鉄鋼・非鉄」「金属」「一般機械」「輸送用機器」「精密機器」は大幅悪化を見通している。
 「競争激化による受注、利益の減少」「取引先が海外生産移転を始めるので将来不安」といった声の他に「新しい取引先に期待出来そう」といった声があった。

自由意見

製造業

- 新しい取引先が今後期待出来そうです。【食料品】
- 日本の製造業に元気がなければ、日本の発展はないと思います。製造業がどんどん海外へ移転し、若者の働く場所もないようでは、日本の未来はない。【食料品】
- 原料高の製品安。【織物】
- 経済の閉塞感が強く、本年後半より厳しさが増している。先の展望が見えない限り、この経済状況が続くと考えます。一企業の力では対処できないような状況まで来ていると考えます。【織物】
- 業況は依然として好転せず、天候などで今後も変動する。先行き不安。【縫製】
- 売掛金の回収が困難になっている。【印刷】
- 今までのやり方で印刷業を続けていては、これからの商売が成り立たなくなりつつある。【印刷】
- 得意先は上場企業であるが、1\$ = 80円の円高だと今後の受注にどのような影響が出るか不透明である。【窯業・土石】
- 業界の集約化が進むも、需要減に追いつかない状況。燃料費もじわじわ値上がり始めており、加えて受注単価も下がり始めている。更に事業規模を縮小して対応せざるを得ない。【窯業・土石】
- 主原料の「銅地金」の価格が高騰しており、収益を圧迫しています。【鉄鋼・非鉄】
- 全体的に低調。【鉄鋼・非鉄】
- 円高の影響及び4月以降の見通しが立たず、不安です。【鉄鋼・非鉄】
- 受注増の見込みが薄く、借入金の返済再開が心配です。【鉄鋼・非鉄】
- OH21. 10月から、生産量が上昇、それ以降は問題なく推移しています。【鉄鋼・非鉄】
- 好調だった半導体製造装置も一段落し、官需の見込みも無く、先行き不透明で売上の減少から資金繰りの悪化が心配です。【金属】
- 親会社が海外生産移転を始めるので、将来不安が増大した。【金属】
- このところ全く先の予想がつかません。資金繰りと借入が長引く不況でだんだん厳しくなっています。【一般機械】
- 売上が少し増加傾向にあります。【一般機械】
- 当社メインの得意先の特需により昨年末から急回復できた。今後も維持して欲しいと願っている。景況に左右されない

企業づくりが今後の課題。	【電気機器】
○将来的に量産品を海外移管する話が有り、展望が持てない。	【電気機器】
○業界的には最近下降傾向のようだが、自社としてはこれまでにない程、良い状況にある。	【電気機器】
○単価の下落が止まらず、切下げの圧力が強い。	【輸送用機器】
○今後はグローバル化を一層進めていかないと存続リスクが生じる。	【輸送用機器】
○海外生産移転の影響か、大手企業の発注量が大幅に減少していると思う。同時にコストダウンも迫られ、両面で厳しさを感している。	【精密機器】
○円高の影響がより深刻になっています。それに加え、中国のインフレ対策により需要の先細りが心配です。	【精密機器】
○台湾企業に対し、価格競争、納期対応の面で優位にあるが、為替変動によっては厳しくなる。また、短納期対応のためユーザーも先の情報が決定しないと流さないため、先が読めない状況にある。	【精密機器】
○OTV関連の落込み、自動車関係の海外生産移転及び円高等々により、目先より落込みが発生して来ます。	【プラスチック】
○全体的に萎縮しているのを実感している。どこまで下がるかは分からない。	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-43.8
先行き	-37.5
前回比	6.2

対象企業	67
回答企業	48

業況・売上・資金繰りはわずかに改善、採算は横ばいを示した。

業種別にみると「土木」は業況でわずかに悪化を示したのに対し、売上・採算・資金繰りは横ばいを示した。「建築」は業況でわずかに改善、売上・資金繰りで改善、採算は横ばいを示した。

3か月先見通しの業況・採算はわずかに改善、売上・資金繰りではわずかに悪化を見通している。

業種別にみると「土木」は業況・売上・採算でわずかに改善、資金繰りで横ばいを見通している。「建築」は業況で横ばい、売上で悪化、採算でわずかに改善、資金繰りでは僅かに悪化を見通している。

「品質より価格を優先した結果、施工後のトラブルが多い」「高校新卒の雇用が現況では困難」といった声があった。

自由意見

建設業

○先行きが不透明。	【土木】
○品質よりも目先の価格にとらわれる傾向があり、施工後のトラブル事例をよく耳にいたします。	【建築】
○現況では高校新卒を雇用して育成する余裕がなく、近い将来の若年技術者の不足が心配。	【建築】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-17.7
先行き	-30.6
前回比	17.0

対象企業	109
回答企業	62

業況・売上・採算・資金繰りのすべてでわずかに改善を示した。

業種別にみると、業況は「建築材料」で大幅改善、「衣服」で改善、「青果物」でわずかに改善を示したが、「鮮魚」ではわずかに悪化、「機械器具」では悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのすべてでわずかに悪化の見通しを示した。

業種別にみると、業況は「飲食料」「機械器具」でわずかに改善、「青果物」でわずかに悪化、「建築材料」で大幅悪化を見通している。

「流通業界は10ヶ月連続で前年同期割れとなっている為、先行き不安」「経済の停滞により、経営環境は厳しい」という声があった。

自由意見

卸売業

○夏から秋にかけての天候不順で、青果物の単価が上昇している。	【青果物】
○米価の下落等により、今後も受注の減少が予想される。	【機械器具】
○仕入単価は上がるが、販売単価が上がらない。	【その他】

<小売業>

業況DI値	
今回	-47.0
先行き	-36.7
前回比	-1.4

対象企業	153
回答企業	98

業況・売上・採算・資金繰りのすべてで横ばいを示した。業種別にみると「飲食料」は業況・売上・資金繰りで改善を示したが、「自動車販売」は業況・売上で悪化を示した。3か月先見通しは、業況・売上・採算でわずかに改善、資金繰りでは横ばいを見通している。業種別にみると「自動車販売」は業況・売上・採算で大幅改善を見通し、「衣料」「飲食料」「家具・建具」は業況でわずかに改善を見通している。「地域の高齢化により客先が減少」「仕入れ価格は上昇しているが、販売単価は上がらない」「売上は減っているのに最低賃金上昇による人件費増」という声がある反面、「ネット販売は好調」という声もあった。

自由意見

小売業

- 雇用情勢が厳しい折、若年層家族の地域離れが進んで高齢者しか残っておらず、売上減少の一途である。【中小スーパー】
- 中小企業は、デフレ脱却に苦しんでいる。流通業界は10ヶ月連続で前年同期割れとなっている為、先行き不安材料が残る。【中小スーパー】
- 経済の停滞により、経営環境は厳しい。【中小スーパー】
- 高齢化の影響により、御得意様が減少の一途で、将来性が無くなりつつあります。【衣料】
- 通信販売、出店販売は伸びていますが、自店舗の集客は厳しくなっています。集中と選択を考えていますが、なかなか整理ができません。【飲食料】
- 業務用カット野菜の工場ですが、天候不順の影響で先々が心配です。【飲食料】
- 7月から9月までは猛暑で売上が激減した。10月以降涼しくなっても売上が回復しなかった。【飲食料】
- 業績が悪化しているのに最低賃金の引き上げで人件費増となり、経営が厳しくなりました。【飲食料】
- 地域の人口減少に歯止めがかからず、販売先客数が年々減少傾向にある。【飲食料】
- 自社、業界共に虫の息です。【飲食料】
- 運転資金の借入をしないように、工事のある時だけ臨時雇用し、営業しております。お客様にはハガキを出して仕事の受注につなげています。【家電品】
- 「QE2」による流動性供給は、商品価格に波及しており、新興国中心にインフレの芽も見え始めている。デフレ対策として景気回復策としての「QE2」ではあるが、インフレには注意が必要。長期金利の上昇も懸念。(QE2＝量的金融緩和第二期)【自動車販売】
- エコカー減税打切りで、10～12月の新車売上の落ち込みは大きかった。【自動車販売】
- 競争激化による受注、利益の減少が止まらない。【家具・建具】
- 7～11月の業績は前年以上でしたが、12月以降は激減が予想されます。【家具・建具】
- 大変厳しい一年でした。【家具・建具】
- 日本の消費は大変厳しいが、中国の富裕層向け高級品の需要が増えてきている。【その他】
- 各社の販売競争が激化し、販売単価が下がり始めているが、仕入単価は少し上がっているため、利益が取れにくくなっている。【その他】
- ネット販売は良好。【その他】
- 商店街に客が来ない。固定客以外のフリー客をどの様に確保するか。ネット販売についてもリーマンショック以降上向きにならない。【その他】
- デフレ下で粗利が低下している。最低時給の増は総人件費の枠内で対処せざるを得ない。【その他】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-32.1
先行き	-48.2
前回比	-1.8

対象企業	106
回答企業	56

売上はわずかに悪化、業況・採算・資金繰りは横ばいを示した。「観光旅館」は業況・売上・採算で改善を示したが、「情報サービス」は売上・採算・資金繰りで悪化、「タクシー」は業況・売上・資金繰りで大幅悪化を示した。3か月先見通しの資金繰りは横ばい、業況・売上・採算はわずかに悪化を見通している。業種別にみると「タクシー」は業況・売上でわずかに改善、採算・資金繰りで改善を見通しているが、「運送」は業況・売上・資金繰りで悪化を見通している。「軽油の値上がり幅が大きくなり、経費が増加」「宿泊客が少なくなった」という声や「軽油価格以外は全体的に良好だが、先行きは不透明」といった声があった。

自由意見

サービス業

- 企業の投資促進や個人消費の拡大が必要。【旅館・ホテル】
- 宿泊客が少なくなりました。【旅館・ホテル】
- 依然としてデフレ状況は続いています。【タクシー】
- 市内のタクシー会社で約2割の減車を行いました。市場も昨年の同時期より縮小しているせいか、厳しい経営を強いられています。【タクシー】

○前年と比べると、軽油単価等を除いて全般的に良化しているように思いますが、先行き不透明です 【運送】

○12月に入り、軽油の値上がり幅が大きくなり、経費の増加につながっている。 【運送】
